

悲しみを喜びに

クリスマスの喜び
2007年アドベント
第1週

ザカリアに与えられた喜び

＜ルカ1:5～25＞

- 祭司でありながら、子どもが与えられずすでに歳を取っていた
- ザカリアに神殿で香をたく機会が巡ってきた
- 神殿で天使が現れ男の子が与えられると告げた
 - 天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。」＜1:13＞

ザカリア夫妻の喜び

- 天使は、その子が「喜び」となる、と言った
 - 「その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。」＜1:14＞
- ザカリアはそのことを信じられず、子どもが生まれるまで口がきけなかった
- エリサベトは5ヶ月身を隠していたが子どもが与えられたことを確認して喜んだ
 - 「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。」＜1:25＞

ザカリア夫妻の子どもがもたらした 喜び

- エリサベトが妊娠6ヶ月の時、イエスの母マリアが彼女のもとを訪れた
 - 「神にできないことは何一つない」ことを確認した
- 子どもが生まれたときみんなが喜んだ
 - 「さて、月が満ちて、エリサベトは男の子を産んだ。近所の人々や親類は、主がエリサベトを大いに慈しまれたと聞いて喜び合った。」＜1:57-58＞
- 生まれた子どもは洗礼者ヨハネとなりイエス・キリストの道備えをした

イエスがもたらした大きな喜び

- ヨハネの半年後に生まれたイエス
- イエスは悲しんでいる人を探して慰め、喜びを与えられた
 - 重い皮膚病を患っていた人々
 - 息子を失ったナインのやもめ
 - 「罪人」と呼ばれ差別されていた人々
- イエスは悲しみの人であった
 - 「彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。」＜イザヤ53:3＞

悲しみの根源を絶つために

- イエスは私たちの悲しみを知っておられた
- イエスは私たちの悲しみを背負って、十字架で死なれた
 - 誰よりも大きな悲しみを味わわれた
 - 私たちの心に永遠の慰めを注ぐために死なれた
 - 私たちの悲しみの根源「罪」を取り去られた
- イエスは私たちを慰めるために今も私たちの心に住んで下さる

永久に変わらない喜び

- 神は私たちの悲しみを知っておられ、慰めてくださる
- 私たちの悲しみも喜びも一時的である
 - この世にあっては決して避けられない
- イエス・キリストを通して永久に変わらない喜びを与えられた
 - 「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。」＜黙示録21: 4＞